

シナリオに見られる使役文の使用実態

－「サセル」と「テモラウ」の互換性－

松岡知津子・宋 天 鴻・小樋 健汰

Usages of Causative Expressions in Scenarios: Compatibility of “-saseru” and “-temorau”

MATSUOKA Chizuko, SONG Tianhong, KOHI Kenta

〈Abstract〉

This paper aims to analyze the difference of the usage of “-saseru” and “-temorau” sentences, focusing on the causative expression that appears in drama scenario books, and we concluded as follows. (1) We divided “-saseru” expressions into “induced” and “permissive” referring to the previous studies, and we pointed out that only “volition-type induced” among “induced” is compatible with “-temorau”. (2) Regarding the compatibility of “-saseru” with “-temorau”, we pointed out that “-saseru” is preferred only when the causer compels the causee to perform an act, while “-temorau” is chosen in the other cases. This is because the use of “-saseru” may imply the meaning of coercion even if there is no such meaning, which then could give the impression of arrogance.

キーワード：使役文、使用実態、「サセル」、「テモラウ」、互換性

1. はじめに

- (1) (私が) 太郎に飲み物を買いに行かせる。
- (2) (私が) 太郎に飲み物を買いに行ってもらう。

上記の例 (1) (2) は、いずれも「私」が「太郎が飲み物を買に行く」という事態を引き起こすことを表しており、論理的意味は同じであるが、「太郎」に対する心理的態度が異なっている。すなわち、(1) の「サセル」文は、「私」が「太郎」に対して飲み物を買に行くよう仕向けることに焦点を当てた使役文であるのに対して、(2) の「テモラウ」文には「私」が動作主である「太郎」に恩恵を感じていることに焦点が当たっている。しかしながら、5名の日本語母語話者の内省から、ある文脈においては、(1) のような文はあまり好まれず、(2) のように表すことが分かった。それでは、これら「サセル」文および「テモラウ」文は、どのような場合にどちらの表現が用いられがちなのであろうか。

本研究では、まず先行研究を踏まえた上で、「サセル」と「テモラウ」が、どのような場合に互換性を持つのかについて検討する。そして、互換性のある「サセル」文と「テモラウ」文の使用傾向について主にドラマのシナリオブックの会話文 (113 例) を手掛かりに明らかにしていくが、必要に応じて作例も用いる。

2. 先行研究

2.1 「サセル」文の先行研究

日本語の「X が Y ニ/ヲ～ (サ) セル」は「使役文」と呼ばれており、使役者 X が、被使役者 Y の動作・作用の成立に関わっていることを捉えるものである。使役文が表す意味について、これまで数多くの論考があり、以下のように 3 種類に大別することができる。

一つ目は、使役者 X が「Y ガ～スル」事態の成立にどう関わるかによって、「強制/指示・命令」、「許可」、「放任・放置」、「原因」(主に感情動詞の使役文)、「不本意/責任」などに細かく分類するものである (宮地 1969、藤井 1971、阪田・倉持 1980、近藤 2018 など)。次の例 (3)～(7) を参照されたい。

- (3) 母が子どもに本を読ませた。[強制/指示・命令] (近藤 2018 : 73)
- (4) 母が漫画好きの子どもに漫画を読ませた。[許可] (近藤 2018 : 73)
- (5) 母が子どもに言いたいだけ言わせた。[放任] (近藤 2018 : 73)
- (6) ニュースが人々を驚かせた。[原因] (近藤 2018 : 73)
- (7) (<私>が) 事故で親友を死なせた。[責任] (近藤 2018 : 74)

そして、近藤 (2018) によれば、例 (8) のような「サセル」文は使役者 X が自身の一部に働きかけることを表し、いわゆる「使役」として解釈されない。

- (8) 子どもたちがサンタのプレゼントに声を弾ませた。(近藤 2018 : 75)

二つ目の日本語記述文法研究会編 (2009) も、使役者 X が「Y ガ～スル」事態の成立にどう関わるかによって使役文进行分类したものであるが、同稿では、表 1 のように、使役文を三つに大別 (六つの小分類) している。

表 1 使役文の分類（日本語記述文法研究会編 2009）

使役者が間接的に事態の成立にかかわる使役文	能動的使役文	
	受容的使役文	許可
		放任・放置
使役者が直接的に事態の成立にかかわる使役文	原因的使役文	
	他動的使役文	
使役者が事態の成立に積極的に関わらない使役文	有責的使役文	

日本語記述文法研究会編（2009）では、能動的使役文には、指示や命令を表すものが多いが、例（9）のようなはっきりとした指示や命令を伴わないものもあると述べている。

（9）鈴木はウィンカーを出し、右折しようとしている車を先に行かせた。

（日本語記述文法研究会編 2009：264）

「受容的使役文（許可、放任・放置）」、「原因的使役文」、「有責的使役文」は宮地（1969）などにも見られる分類である。他動的使役文というのは、対応する他動詞がない場合、自動詞の使役形を他動詞代わりに用いるものである。例（10）を参照されたい。

（10）母親が赤ん坊をやっと眠らせた。（日本語記述文法研究会編 2009：268）

三つ目は、柴谷（1978）を代表する研究であり、使役文を「誘発使役」と「許容使役」の二つに分けるものである。柴谷（1978：310）では、「誘発使役」と「許容使役」について次のように述べている。

誘発使役状況とは、ある事象が使役者の誘発がなければ起こらなかったが、使役者の誘発があったので起こったという状況を指す。一方、許容使役とは、ある事象が起こる状態にあって、許容者（使役者と形態的に同じ）はこれを妨げることが出来た。しかし許容者の妨げが控えられ、その結果その事象が起こったという状況を指す。

柴谷（1978）によれば、宮地（1969）、日本語記述文法研究会編（2009）などに挙げた「指示・命令（能動的使役文）」、「原因」、「他動詞的使役文」が「誘発使役」に、そして、「許可、放任・放置（受容的使役文）」、「責任」が「許容使役」に分類することができる。

2.2 「テモラウ」文の先行研究

「テモラウ」文についてもこれまで多くの研究が行われてきたが、日本語の「X が Y ニ〜テモラウ」は、例 (11) の「受益型テモラウ」と例 (12) の「使役型テモラウ」の二種類に大別される (奥津・徐 1982、益岡 2001 など)。

(11) 先生に作文をほめてもらった。(益岡 2001: 29)

(12) 花子に (頼んで) 代わりに行ってもらった。(益岡 2001: 29)

例 (12) の「使役型テモラウ」は被使役者に依頼して事態の実現を図ることを表し、「指示・命令」の「サセル」文に近いものだと考えられる。

2.3 本稿の立場

諸先行研究に関して、本稿では次のように考える。まず、本稿の調査では、宮地 (1969) などによる七つの分類に当てはまらない例があることを発見した。

(13) 千石さん、毎回仕上がり難癖つけてやり直しさせるんだもん。(『き』)

例 (13) では、前後の文脈を合わせて説明すると、「やり直しさせる」は、「千石さん」が身振りや婉曲的な表現によって美容師に髪デザインのやり直すように仕向ける意味を表す。日本語記述文法研究会編 (2009) によれば、例 (13) は「能動的使役文」の周遍的なものとして位置付けられるが、このようなタイプも含めて、「指示・命令」、「原因」、「他動詞の代用」の使役文は、柴谷 (1978) が述べるように、使役者の何らかの「誘発」によって事態が成立することが共通しており、これらの用法を「誘発使役」に分類するのが適切だと考えられる。

次に、「許可」、「放任・放置」、「責任」などの使役文に関しては、本稿は柴谷 (1978) に賛同し、使役者 (許容者) の妨げがないことから、これらの「サセル」文を「許容使役」に分類するのが適切だと考える。

そして、本研究では、「サセル」文の否定形「サセナイ」と「受益型テモラウ」を分析の対象から除外することとする。その理由を次のように述べる。

(14) 予算がない予算がないばかりで、現場のやりたいことやらせないんだよ。(『大 1』)

(15) 普段モテない人って、ちょっと構ってもらっただけで、妄想膨らむじゃないですか。

(『大 2』)

例 (14) のように「サセル」を否定形とすることで、「やる」という行為自体が生起せず、「誘発」または「許容」などの意味役割を失ってしまう。例 (15) は「受益型テモラウ」であり、「受身文」に近い意味を持つため、そもそも「使役文」とは異なるヴォイスである。

3. 「サセル」と「テモラウ」の互換性

以下、同じ事態を表しているかどうかという点について、誘発使役と許容使役の 2 つの分類において、「サセル」と「テモラウ」の互換性を考察する。

3.1 誘発使役の場合

佐藤 (1986) や早津 (2016) によれば、使役者の誘発によって意志的行為が引き起こされ、かつ、使役者が利益を受け取ることを表す「サセル」文は、「テモラウ」文とほぼ同じ事態を表すとのことである。筆者らが収集した例 (16) はそれに該当するものである。

(16) 現場周辺の銀行やコンビニに、防犯カメラの映像を提供させたと聞きました。(『相』)

(16') 現場周辺の銀行やコンビニに、防犯カメラの映像を提供してもらったと聞きました。

例 (16) は、銀行やコンビニが映像を提供することによって調査が進められ、警察にとっては有利なことである。例 (16) の「提供させた」は例 (16') の「提供してもらった」と互換性があると言えよう。

同様に、「使役型テモラウ文」の例 (17) では、被使役者の「西園寺くん」に何かを買うよう仕向けることによって使役者の「唄」が利益を被るため、例 (17) は例 (17') の「サセル」文に置き換え可能である。

(17) (とわ子と幾子は唄に話かけている)

とわ子：大変だからこそ、自分で稼いで、自分の欲しいものを手に入れた時に嬉しいんじゃないか。

幾子：西園寺くんに買ってもらえばいいもんね。(『大 1』)

(17') (とわ子と幾子は唄に話かけている)

とわ子：大変だからこそ、自分で稼いで、自分の欲しいものを手に入れた時に嬉

しいんじゃないか。

幾子：西園寺くんに買わせればいいもんね。

早津 (2016) では、被使役者が一人称である場合は、「サセル」文を「テモラウ」文に置き換えにくいと指摘しているが、例 (18) (18') のように、使役者を非難する場合は置き換え可能である。

(18) こんだけやらせて、お礼もなしですか。(『相』)

(18') こんだけ (私に) やってもらって、お礼もなしですか。

使役型の「テモラウ」文は、本来恩恵の受け手である「私」に視点を置く表現である。「X ガ私ニ～テモラウ」では、「私」が与え手になり、視点違反になるため、例 (18) は不自然な表現のはずである。しかし、あえて「X ガ私ニ～テモラウ」を用い、構文上違和感もしくは意外性を表出することが、「恩恵を受け取っているのに、相応しい対応をしていない」という「非難」の意味に繋がりやすいため、例 (18') は自然な表現になるのである。

さらに、使役者が利益を受け取らないような「サセル」文でも、「テモラウ」文に置き換え可能な場合もある。

(19) 鈴木はウィンカーを出し、右折しようとしている車を先に行かせた。(=[9])

(19') 鈴木はウィンカーを出し、右折しようとしている車に先に行ってもらった。

(20) しかし何を食わせればいいんだ？調味料までオーガニックにこだわるような二人だぞ？(『き』)

(20') しかし何を食ってもらえればいいんだ？調味料までオーガニックにこだわるような二人だぞ？

例 (19) は、鈴木がウィンカーを出して、別の車が先に行けるような環境を作ることを表す。例 (20) は、使役者が被使役者に食べ物を提供することを表す。つまり、例 (19) (20) は、使役者が何かを与えることによって、被使役者の行為が誘発されることが特徴であり、利益を主に受け取るのは被使役者だと考えられる。例 (19) (20) のような「サセル」文も、「テモラウ」文に置き換え可能である。また、使役者の「授与」を表す「サセル」文は「サセテアゲル」の形で用いられやすいと考えられるが、今回はデータが十分

収集できなかったため、今後のさらなる調査が必要である。

以上、「テモラウ」文に置き換え可能な「サセル」文には、使役者が利益を受け取るものもあれば、受け取らないものもあるが、使役者の誘発によって被使役者の意志的行為が引き起こされることを表すことが共通している。本稿では、このような「サセル」文を「意志型誘発使役」と呼ぶ。「意志型誘発使役」の「サセル」文は基本使役型の「テモラウ」文に置き換え可能である。但し、使役型の「テモラウ」文は被使役者に対して直接的に命令する際にも用いられるが、以下のように、「意志型誘発使役」の「サセル」文はこのような用法を持たない。

(21) とわ子：松林さんにも参加してもらいます。

悠介：（え、と思うが、とわ子を見て）わかりました。

(21') とわ子：*松林さんにも参加させます。¹⁾

悠介：（え、と思うが、とわ子を見て）わかりました。

上記の例(16)～(21)に対して、次の例(22)～(24)の「サセル」文は、被使役者の非意志的行為が誘発されるものと見られる。

(22) ちゃんとびっくり出来なかったら、せっかく準備してくれたみなさんをがっかりさせてしまうよ？(『大1』)

(23) ひとりで死なせちゃったよ。(『大2』)

(24) 理想と現実って対立させるものじゃないと思う。(『大2』)

例(22)において、使役者によって誘発される「がっかりする」という感情は、被使役者自身が制御できないものである。例(23)は話者があたかも被使役者の死に責任を持つと解釈される「サセル」文である。例(24)は、対応する他動詞がないため、対立する自動詞の「サセル」形を他動詞代わりに使用するものである。例(22')～(24')に示すように、「原因使役文」、「有責使役文」、「他動詞的使役文」はそれぞれ「テモラウ」文と互換性を持たない。

(22') *ちゃんとびっくり出来なかったら、せっかく準備してくれたみなさんにがっかりしてもらおうよ？

(23') *ひとりで死んでもらったよ。

(24') *理想と現実って対立してもらうものじゃないと思う。

例 (22') の「がっかりしてもらう」は、演技するという意味になってくる。文法的には問題ないものの、この文脈にはそぐわない。つまり、「がっかりさせる」は被使役者の非意志的行為が引き起こされることを表すが、「がっかりしてもらう」は被使役者の演技という意志的行為が引き起こされることを表すため、両者は互換性がない。例 (23) では、使役者が被使役者の死に責任を感じているが、例 (23') では、そのような意味がなく、両者は置き換えられない。そして、そもそも「自動詞+テモラウ」の形は他動詞代わりに用いる機能がないため、例 (24') は非文である。

3.2 許容使役の場合

例 (25) (26) はそれぞれ「許可」と「放任」を表すものであり、許容使役の例である。

(25) 本人の希望を入れて、アメリカに留学させた。(阪田・倉持 1980: 27)

(26) 子供をひとりで旅行に行かせるのは危険だ。(阪田・倉持 1980: 27)

次の例 (25') (26') に示すように、許容使役の「サセル」文は、誘発を表す使役型の「テモラウ」文に置き換えられにくい。²⁾

(25') ??本人の希望を入れて、アメリカに留学してもらった。

(26') ??子供にひとりで旅行に行ってもらうのは危険だ。

また、今回収集した許容使役の「サセル」文は、全て「テアゲル」「テクレル」「テモラウ」など授受表現と共起するものである。

(27) 僕の個展が開かれるとき、愚にもつかない絵を描いているお前には、入場券のモギリをやらせてやろう。(『相』)

(27') #僕の個展が開かれるとき、愚にもつかない絵を描いているお前には、入場券のモギリをやってもらってやろう。

(28) 追加予算のことでもう一度お話しさせてください。(『大 1』)

(28') #追加予算のことでもう一度お話ししてもらってください。

(29) 今度写真を撮らせてもらっていいですか? (『大 1』)

(29') #今度写真を撮ってもらってもらっていいですか？

例 (27) の「サセルテアゲル」は「入場券のモギリをやること」を許容する意味であり、例 (28) (29) の「サセルテクレル/モラウ」は「話すこと」、「撮ること」を妨げないよう依頼する意味を表す。例 (27) ～ (29) の「サセル」は、使役型の「テモラウ」に置き換えられない。

4. 「サセル」文と「テモラウ」文の使用傾向

以下、置き換え可能な関係にある「意志型誘発使役」の「サセル」文と、使役型の「テモラウ」文の使用傾向について考察する。

(30) 現場周辺の銀行やコンビニに、防犯カメラの映像を提供させたと聞きました。

(30') 現場周辺の銀行やコンビニに、防犯カメラの映像を提供してもらったと聞きました。

(31) (とわ子と幾子は唄に話かけている)

とわ子：大変だからこそ、自分で稼いで、自分の欲しいものを手に入れた時に嬉しいんじゃないか。

幾子：西園寺くんを買ってもらえばいいもんね。

(31') (とわ子と幾子は唄に話かけている)

とわ子：大変だからこそ、自分で稼いで、自分の欲しいものを手に入れた時に嬉しいんじゃないか。

幾子：西園寺くんを買わせればいいもんね。

$[(30)/(30') = (16)/(16')]$ 、 $[(31)/(31') = (17)/(17')]$

例 (30) (31) の「サセル」文は例 (30') (31') の「サセル」文に置き換え可能であるが、5名の母語話者の内省によると、「サセル」文を用いることで傲慢に聞こえてしまい、「テモラウ」文がより自然だと判断する人が4名いた。具体的には、例 (30) において、警察に映像を提供するのは法的には義務ではないものの、社会的には協力すべきだと認識されている。しかし、警察は銀行やコンビニに対して映像の提出を強制する立場ではないため、「サセル」文を使うと、警察に強いられているという印象を与えてしまう。同様に、例 (31) では、恋人である「唄」が「西園寺くん」に何かを買うことを強制する立場にならないことから、「買わせる」には「強制」の意味が読み取れ、ふさわしくないとのことであった。

(32) (教員が授業の進め方について聞かれて)

まず学生と一緒に言語現象を確認してから、匿名でコメントを書かせるような形でやっています。(作例)

(32') (教員が授業の進め方について聞かれて)

まず学生と一緒に言語現象を確認してから、匿名でコメントを書いてもらうような形でやっています。(作例)

例 (32) では、教員が学生にコメントを書くよう指示する立場であると考え、「書かせる」は自然な表現であると言えよう。しかし、教員はあくまで学生の学習をサポートする役であると考えた場合、「書かせる」には「強制」の意味が読み取れ、傲慢で不適切なイメージを与えてしまう。その場合は、例 (32') の「書いてもらう」のほうが傲慢さがなく自然に感じられるとのことである。

(33) えー、就業規則に定められた労働時間を越える深夜に及ぶ勤務。若手社員を個室に呼び出しての恫喝。設計士の図面を社長自ら描き替えた上で強要し、その社員を退職に追い込む。ヴィゲート社との取り引きにおいて私的な感情を持ち込み、深夜に及ぶ作業を社員に行わせた。

(33')[※]えー、就業規則に定められた労働時間を越える深夜に及ぶ勤務。若手社員を個室に呼び出しての恫喝。設計士の図面を社長自ら描き替えた上で強要し、その社員を退職に追い込む。ヴィゲート社との取り引きにおいて私的な感情を持ち込み、深夜に及ぶ作業を社員に行ってもらった。

例 (33) の「行わせた」と例 (33') の「行ってもらった」は、いずれも社長が社員に作業をするように仕向けることを表す。しかし、例 (33) のように被使役者が使役者に行為の実行を強いられている文脈では、「サセル」文の使用が適切であるが、「テモラウ」文は不自然である。

5. 終わりに

本研究では、まず、先行研究の「サセル」文の分類を参照しながら「誘発使役」と「許容使役」に二分し、誘発使役文のうち「意志型誘発使役文」のみが「テモラウ」文との互換性を持つことを指摘した。

次に、論理的意味は同じであるが、心的態度が異なっている「サセル」と「テモラウ」

について、5名の日本語母語話者の内省を手がかりに、両者の使用傾向を調査し、結論を次のようにまとめた。すなわち、使役者が被使役者に行為を行うよう強制する場合に限り「サセル」文が好まれる。それ以外の場合は「サセル」文を用いると強制の文脈でなくとも強制の意味が読み取れてしまい、傲慢な印象を与えてしまう可能性があるため、「テモラウ」が選ばれることを指摘した。

本研究では、大々的な調査は行えず、少人数の日本語母語話者の内省に頼ったものであったが、今後は年齢別などにより大規模な調査を行い、今回みた使用傾向が起きているかを検証していきたい。

注

- 1) 本稿の凡例は次のようである。「*：非文」、「#：文法的には正しいが、語用論的には相応しくないもの」、「??：非文には至っていないが、不自然に感じられるもの」。
- 2) 例(26)は、阪田・倉持(1980)は許容使役の例として扱っているが、この例は、例えば「本来は一緒に旅行する予定であったが、親が忙しい等の理由により、子供が一人で旅行するように仕向けた」のような文脈においては誘発使役ともなりうる。本稿では、許容使役の意味として、例(26)の「サセル」と「テモラウ」との互換性を考えた。

参考文献

- 奥津敬一郎・徐昌華(1982)『『～てもらう』とそれに対応する中国語の表現－“请”を中心に』『日本語教育』(46), pp.92-104.
- 近藤安月子(2018)『「日本語らしさ」の文法』研究社.
- 阪田雪子・倉持保男(1980)『教師用日本語教育ハンドブック④文法Ⅱ助動詞を中心として』国際交流基金.
- 佐藤里美(1986)「使役構造の文」『ことばの科学 1』, pp.89-179, むぎ書房.
- 柴谷方良(1978)『日本語の分析』大修館書店.
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法 2』くろしお出版.
- 早津恵美子(2016)『現代日本語の使役文』ひつじ書房.
- 藤井正(1971)「日本語の使役態」『山口大学教育学部研究論叢』(20) 1, pp.15-22.
- 益岡隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』(5), pp.26-32.
- 宮地裕(1969)「せる・させる<現代語>」松村明(編)『古典語現代語助詞助動詞詳説』pp.89-96, 学燈社.

用例出典

- 『相』：『相棒 シナリオ傑作選 2』(2022) 興水泰弘他 竹書房
- 『大 1』：『大豆田とわ子と三人の元夫 1』(2021) 坂元裕二 河出書房新社 kindle 版
- 『大 2』：『大豆田とわ子と三人の元夫 2』(2021) 坂元裕二 河出書房新社 kindle 版
- 『き』：『きのう何食べた?』(2021) シナリオブックドラマ編 安達奈緒子 講談社